

# 2018 年 (H30) 重点活動

## ストップ結核パートナーシップ日本

### 1. 2020 年までに日本を低蔓延化にするための提言、啓発活動

「2020 年までに日本を低蔓延国にする」ことへの認知拡大、結核の正しい知識の普及とともに、厚生労働省、各関係団体の低蔓延化に向けた活動を提言、普及啓発の面で支援する。

### 2. 世界の結核対策推進のための提言、啓発活動

WHO 新戦略 (End TB Strategy)、改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン推進のための普及、啓発、提言活動を行う。WHO や Stop TB Partnership のストップ結核パートナーシップ推進議員連盟や関係省庁、団体への情報提供を強化する。2018 年 UN HLM (\*) に向けて、結核による社会・経済的打撃、公衆衛生の脅威としての結核の重要性を啓発・提言する。AMR (薬剤耐性) と薬剤耐性結核の関係も啓発・提言をする。Global TB Caucus への協力。

(\*) 国連による結核ハイレベル会議 (UN HLM) が 2018 年に開催予定。地球規模的な公衆衛生の脅威として結核に国際的な注目が集まる。(MDR-TB は AMR の 30% をしめる)

### 3. 革新的技術の早期実現に向けた提言、啓発活動

日本の結核対策と新技術を特にアジアを中心とする新興国・途上国の結核対策に活用し、世界目標達成に貢献するべく支援する。

### 4. 患者支援活動

現在のニーズにあった新しい患者支援の在り方を探り、また、患者さん自身によるサポートや支援患者団体への支援を行い、結核を克服し社会で活躍する元患者さんを応援する。結核は治るという元気で前向きなメッセージを患者さんや家族、社会に伝える。

# 1. 2020年までに日本を低蔓延化にするための提言、啓発活動

- 定款1： 医療従事者、政策決定者や一般市民に対して、情報提供や研修を通じて結核に関する啓発活動を推進する事業
- 定款2： 結核対策支援を促進するために、会員や諸団体での会議、事業等による交流を促進する事業
- 定款3： 政府省庁間、NGO、職能団体や民間企業の協力下で、日本の国内及び国際結核対策への参加の協力や調整をする事業
- 定款4： 国際的な結核対策への日本の貢献を高める適切な政策や優先事項を提言する事業

## <概要>

「2020年までに日本を低蔓延国にする」ことへの認知拡大、結核の正しい知識の普及とともに、厚生労働省、各関係団体の低蔓延化に向けた活動を提言、普及啓発の面で支援する。

## <2017年活動と2018年活動予定>

### A 医療・労働・福祉従事者

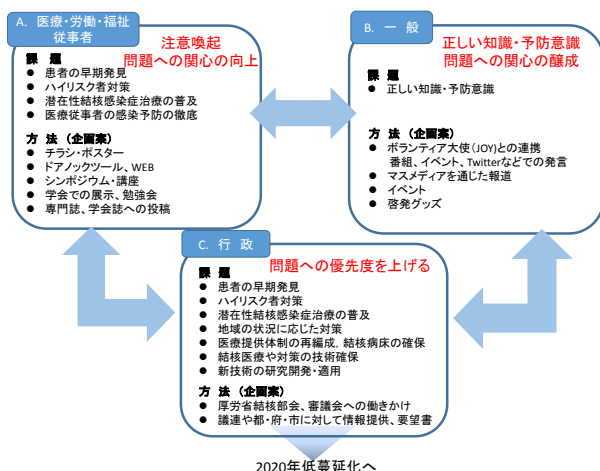
→ 2018年はチラシや営業向けドアノックツールなど作成し、医療従事者などへの注意喚起を行う

### B 一般

- ・全国結核対策支援会議 JOYさん結核ぼうやと登場 結核の経験を語る 3月
  - ・JOYさんインスタグラムへの投稿 3月
  - ・JOYさん、Yahoo ニュースでの取材、経験を語る 4月
  - ・Newsevery (NTV)「タネをまく人」 放送 7月
- JOYの結核ボランティア大使としての活動を通して、結核の正しい知識を啓発
- 2018年も引き続き行う

### C 行政

- ・議連総会コメント 3月  
「低蔓延化について、議連と連携していかなければならない」
- ・記者発表（厚労省同席）8月  
H28登録者集計のポイントと低蔓延化に向けた課題。  
外国からの結核について、結核の検査を課すなど対策を検討しているなどコメント
- ・要望書の提出と面談 8月  
→ 低蔓延化に向けて、減少率が減速していることに注意をして、情報提供を適宜行い、議連と連携して要望書は早急に提出し働きかける。



## 2. 世界の結核対策推進のための提言、啓発活動

- 定款 1: 医療従事者、政策決定者や一般市民に対して、情報提供や研修を通じて結核に関する啓発活動を推進する事業
- 定款 2: 結核対策支援を促進するために、会員や諸団体での会議、事業等による交流を促進する事業
- 定款 3: 政府省庁間、NGO、職能団体や民間企業の協力下で、日本の国内及び国際結核対策への参加の協力や調整をする事業
- 定款 4: 国際的な結核対策への日本の貢献を高める適切な政策や優先事項を提言する事業
- 定款 5: 国際的貢献を推進するための国内の拠点や人材育成を推進する事業

### <概要>

WHO 新戦略 (End TB Strategy)、改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン推進のための普及、啓発、提言活動を行う。WHO や Stop TB Partnership のストップ結核パートナーシップ推進議員連盟や関係省庁、団体への情報提供を強化する。2018 年 UN HLM (\*) に向けて、結核による社会・経済的打撃、公衆衛生の脅威としての結核の重要性を啓発・提言する。Global TB Caucus への協力。

(\*) 国連による結核ハイレベル会議 (UN HLM) が 2018 年に開催予定。地球規模的な公衆衛生の脅威として結核に国際的な注目が集まる。(MDR-TB は AMR の 30%をしめる)

### <2017 年活動と 2018 年活動予定>

2018 は、UN HLM に向けて、Global TB Caucus と連携をしつつ、結核による社会・経済的打撃、公衆衛生の脅威としての結核の重要性を啓発・提言する。

#### ●第 6 回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会 (APRC) 3 月

- ・アジア太平洋女性グループのためのプログラム「結核対策における NGO の役割」にて、「Asian National Stop TB Partnership Forum2016」の報告
- ・「パネルミーティング アジアパシフィック NTP における MDR-TB コントロール」  
薬剤耐性新薬開発基金助成
- ・「結核対策：法令と政治的関与」の後援  
演者：武見敬三、Dr. Tan、國井修 / 座長 岡田耕輔 高階恵美子

#### ●G20 などへの働きかけなど 世界結核議連との連携 5 月～

- ・Berlin TB Summit へ日本の議連としてメッセージ送付  
結果文書 (G207 ハンブルグへの提案書) を議連への共有
- ・G20 首脳コミュニケに AMR の介入の範囲内で結核に対処すること等を含めること支援依頼を安倍総理へ提出
- ・世界結核議連から G20 において、安倍首相のサポートにより、コミュニケの「AMR 対策」項目に結核が含まれたことへ対する礼状が届く。
- ・Nick Herbert 議員 (世界結核議連議長) 訪日に伴う高階恵美子議員、塩崎恭久議員との面談

#### ●小児結核

ユニセフの次期戦略 (2018-2021) へ結核を含ませることへの働きかけ

現行のユニセフの戦略においては、結核は含まれていない。ユニセフの戦略に結核を含ませることは、政治的意

思と財源を結集させる世界的な努力につながり、子供の結核終息への進捗を大きく進めることになる。

<実施>

外務大臣宛ての要望書を作成し、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の会員議員に対し、署名活動を行った。(32名より賛同、内1名は提出後に賛同)

外務省へ要望の面談(外務省 国際協力局 地球規模課題総括課 主席事務官 堀田真吾様、外務事務官)を行い、要望書を提出した。同じものを国連代表部へ提出をした。

<結果>

ユニセフの次期戦略(2018-2021)でゴール分野1の36項の文脈において「結核」が明記された。

(9月執行理事会)

- ・結核に関する活動やユニセフの強みなどユニセフの活動を深く研究し、子供の結核に対してユニセフとして何が必要なのかを科学的に検証する。
- ・関係主要機関との調整の必要性

●UHC フォーラム 2017 サテライトシンポジウムの開催

「UHCと結核対策 - 相互貢献：日本とアジア諸国から学んだ教訓 -」

共催：(公財)結核予防会結核研究所、ストップ結核パートナーシップ日本

### 3. 革新的技術の早期実現に向けた提言、啓発活動

定款1： 医療従事者、政策決定者や一般市民に対して、情報提供や研修を通じて結核に関する啓発活動を推進する事業

定款4： 国際的な結核対策への日本の貢献を高める適切な政策や優先事項を提言する事業

#### <概要>

日本の結核対策と新技術を特にアジアを中心とする新興国・途上国の結核対策に活用し、世界目標達成に貢献するべく支援する。特にアクションプランフォローアップ会合や議員連盟を通して後押ししていく。

1. アジア医療イノベーションコンソーシアム（結核部会）との連携（協議）。
  - ・薬剤耐性結核対策イニシアチブ（※）への支援
  - ・TB-LAMP, ジェノスカラー, デラマニドの官民協カプログラムの対象国の拡大
  - ・実証実験を実施した国での人材養成
  - ・結核の診断・治療ガイドラインの整備
  - ・日本の高機能デジタルX線の普及（※）薬剤耐性菌の診断薬と治療薬をパッケージで提供し、アジアの結核蔓延国で実証研究を行い、当該国での結核終息を官民連携で支援する
2. GHIT ファンドに対する支援
3. 結核にかかる研究開発に対する支援

#### <2017年活動と2018年活動予定>

議連（3/15）で取り上げられた。

日本の医療（薬・技術）を海外で活用するための国内体制の整備（法改正含む）の必要性について  
武見議員、高階議員より、日本の医療（薬・技術）を海外で活用するための体制が整っていないことに対して問題提起があった。外務省（森国際協力審議官）より、現在は内閣官房を中心に連携をとっているが、法改正や日本の既存の組織で海外でも治験できるように現在の組織にそれを付与するなど、体制を整える必要があることが回答された。武見議員より、議連においても問題提起が必要とコメントがあった。

#### 治験に対しての研究開発の問題

単剤だけでなく、薬剤組み合わせの治験の必要性、海外での臨床試験の経験の不足の問題も加藤結核研究所長よりコメントがあった。

→ 引き続きアクションプランフォローアップ会合や議員連盟を通して後押ししていく。

## 4. 患者支援活動

定款2： 結核対策支援を促進するために、会員や諸団体での会議、事業等による交流を促進する事業

### <概要>

現在のニーズにあった新しい患者支援の在り方を探り、また、患者さん自身によるサポートや支援患者団体への支援を行い、結核を克服し社会で活躍する元患者さんを応援する。結核は治るという元気で前向きなメッセージを患者さんや家族、社会に伝える。

1. 元患者さんの社会での活躍をHPなどで伝える
2. ストップ結核ボランティア大使 JOY 氏を通じた活動

6年前に結核悪い...JOYさんは仕事との向き合い方を変えた

日刊ゲンダイDIGITAL 4/24(月) 9:26配信

今から6年前、忘れもしない2011年3月2日の深夜に自分で救急車を呼び、「結核」と診断されて即入院になりました。見せられた肺のレントゲン写真は、両肺とも真っ白だったことを覚えています。医師に「よくこんな状態まで働いていましたね」と言われたとき、正直ホッとしました。それまでいくつも病院に行きましたが、「風邪ですわね」とか「咽喉炎です」と診断されてきたので「これでやっと休める」と思ったのです。

当時のスケジュールはメチャクチャで、1日にテレビ番組の収録が3〜4本は当たり前。ありがたい話ですが当然休みなどなく、地方ロケも日帰り、その足ですぐ別の仕事に向かう……といった具合。「沖縄日帰り」なんてのもありました(笑)。

きっと、体力も免疫力も落ちていたのだと思います。2010年の6月あたりから、とにかく咳が止まらなくなりました。初めは病院で風邪と診断されても何も疑わなかったのですが、もらった薬はちっとも効かず、咳はひどくなるばかり。食欲も落ち、発熱で寒けや震えが止まらない状態にもなりました。「インフルエンザじゃないかな」と思って別の病院に行っても、ことごとく「風邪」か「咽喉炎」と診断されました。

■心身ともに限界「仕事を休めることがうれしかった」

そんなことが9カ月ほど続き、その間に10カ所以上の病院を受診したんです。いよいよ、仕事場でも立ってられない状態になり、帰宅後「もう限界だ」と思っ

レントゲンと痰の検査で、アツという間に「結核」とわかりました。結核がどんなものかは知りませんでしたが、「入院が必要」と医師から聞いて救われた気がしたんです。とにかく、仕事を休めることがうれしかった。「みんなに迷惑をかけよう」という気持ちが浮かんでこないほど心身ともにつらかったのです。でも、それが長い闘いの始まりでした。

結核は、結核菌を吸い込むことで起こる感染症で、肺をはじめとする器官の細胞を壊死させるため、放置すれば死に至る病気です。治療は、抗結核薬を投与しながら菌が出なくなるまで入院。さらに6カ月間は薬を飲み続けなければなりません。

最初は「1カ月の入院」と聞いたのですが、状態が悪すぎて実際には3カ月と長期化しました。薬を飲むと、体が菌と闘うために熱が40度上がり、眠れない日々が続きました。食欲も出ず、体もしんどくて、入院中はずっと具合が悪い状態。結核菌の数値は徐々に減っていくけど、身体的にはまったく良くない状態がしばらく。むしろ入院前より悪くなっている気さえしていました。

#### ■仕事再開も拭えなかった“違和感”

それでも、菌が出なくなると退院となり、2〜3日後にはもう仕事でした。頭も回らないし、立ってられない状態のまま仕事をしてもうまくいくはずがありません。結果を出せず、タレントとしての評価はガク落ちで、仕事は徐々に減っていきました。

退院して半年間、薬を飲み続けた後も、調子が優れない状態が続きました。「前の自分はどんなだったかな」と考えても思い出せないほど仕事への意欲も気力もなくなっていました。病気をしてからは、同情されている感じもあって、同じことを言っても以前とはウケ方が違ってしまうことにも気づき、落ち込みました。でも、自分ではどうにもなりません。

解決してくれたのは「時間」です。頭がクリアになりだし、体に違和感がなくなるまでは、そこから約1年半かかりました。徐々に仕事のペースもつかんで、ある程度仕事量もコントロールできるようになり、今はとてもいい状態です。

ただ、病気を来めつくり風邪をひきやすい体質になりました。だから運動と食事と睡眠には気を使っています。月に3〜4回は仲間とフットサルをして、日頃はランニングもしています。あまり食べなかった野菜も多めに摂取しています。睡眠はできれば7〜8時間ほしいので、夜遊びは減りましたね(笑)。

病気を改めて思ったのは「以前のようなペースでは働きたくない」ということ。「生きるために働くのであり、働くために生きているのではない」と心の底から思うようになりました。仕事を楽しみたいと思えることがいい結果を残すことにつながるはずですし、そのためには休暇を含めプライベートの充実が大事。それと同時に、少しずつチャレンジして仕事の質を上げていかなければいけないとも考えています。

あのまま元気でイケイケで突っ走っていたら、きっとそんなこと考えなかったでしょうね。いつの間にか「消えた芸能人」になっていたんじゃないかな(笑)。

▽1985年、群馬県生まれ。高校3年生でティーン雑誌のモデルとしてデビュー。190センチの長身と端正な顔立ちで一躍人気になり、バラエティ番組等で活躍。現在、群馬テレビ「JOYnt!」、CBCテレビ「ゴゴスマ〜GOGO! Smile!〜」などに出演。LINEスタンプ「メタルJOY」が好評発売中。

2017年4月